

ジュニア空手

リアルチャンピオンシップ入賞

1月12日、第3回全日本少年少女空手道選手権大会2017リアルチャンピオンシップ「小学3年女子クラス」で準優勝した本多純美さん(9)と、「小学3年男子クラス(30キログラム以上)」で3位に入賞した岩瀬光一さん(9)が報告に訪れました。

この大会は、昨年11月23日に兵庫県宝塚市で行われた、地方大会の上位入賞者で競われるチャンピオン決定戦です。二人はこの大会に向け、ほぼ毎日3時間の猛練習を重ねました。岩瀬さんは、全国から集まった30人の選手の中で、三位決定戦までの4試合を戦いました。また、本多さんは昨年の二回戦敗退をバネに決勝まで進み、26人の選手の中で4試合を戦い抜きました。

岩瀬さんは「去年は準優勝だったので悔しかった」と話し、本多さんは「蹴りの調子が良かった。来年は優勝したい」と力強く語りました。二人は2月に大阪府で開催されるジャパンアスリートカップにも出場します。市長は「2月の大会はぜひ優勝して、また報告に来てください」と激励しました。

次は優勝を目指します



社会を明るくする運動作文コンテスト

優秀賞受賞報告

1月16日、「第67回社会を明るくする運動作文コンテスト」で福岡保護観察所長賞(優秀賞)を受賞した直方第三中学校2年生の稲波有珠華さん(13)が報告に訪れました。

難しい題材の作文ですが、稲波さんは夏休みの課題として果敢にチャレンジ。県内の中学生約2万2000人の中から優秀賞に選ばれました。タイトルは「言葉のかけら」。挨拶を交わしたことがきっかけで地域のおばあさんと仲良くなり、今では身近な話題や学校生活のことを話せるまでになりました。この経験から、挨拶は言葉のかけらにすぎないが、この小さな取り組みがまち全体に広がり、地域全体が家族のような関係を築くことで、和やかで思いやりに満ちた明るく美しいまちになると考えた作文です。

作文を書くことで、自分の考えを表現できるところが好きだと話す稲波さん。「優秀賞受賞はとてもうれしい。挨拶は人と人をつなぐ大切なもの。このまち全体に広がればいいですね」と喜びを語りました。

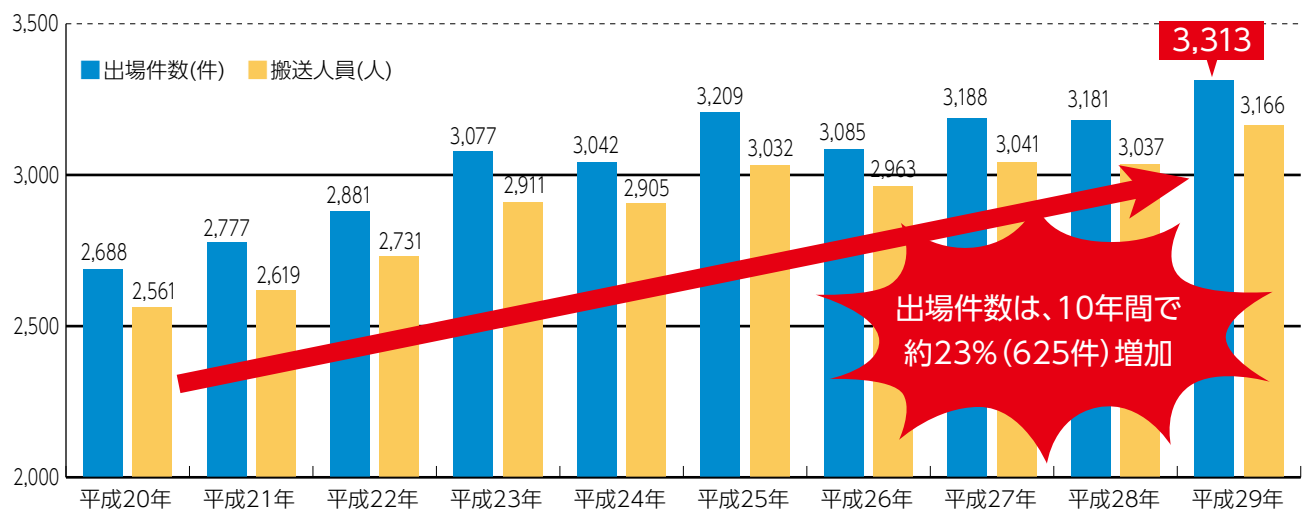
将来の目標は医師



救急出場件数過去最多!

救急車、もう限界です…。
救急車じゃないとだめですか?

過去10年間の救急出場件数および搬送人員の推移

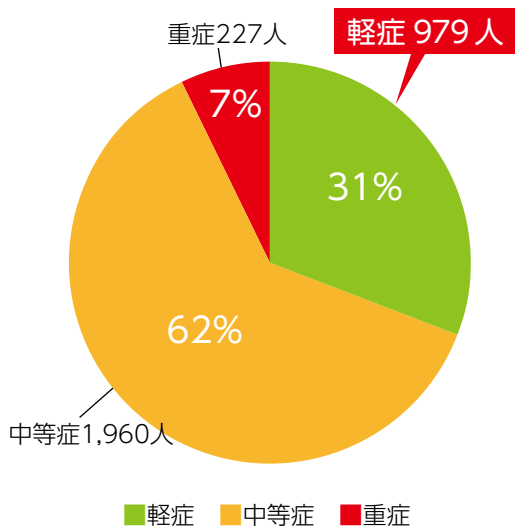


出場件数は、10年間で
約23%(625件)増加

平成29年中の救急出場件数は、3,313件(前年比132件増)となり、過去最高(平成25年 3,209件)を大きく上回りました。また、救急車で搬送された人も、3,166人(前年比人129人増)となり、こちらも過去最高(平成27年 3,041人)を更新しました。

その中で、『軽症(入院を必要としない)』と診断された人が、**全体の3割**を超えており、大切な命が救えないかもしれません。緊急を要する人のためにも、救急車の適正利用にご協力ください。

搬送患者の傷病程度分類



救急車? 病院? 迷ったときには…
「#7119」にお電話を



問い合わせ…消防本部警防課救急係 (TEL 25-2303)

今号の表紙

直方高校写真部の皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。

向野さんコメント

日の出が始まり、日の出橋の上を歩いていく車が増え始めた頃に、遠賀川は、その独特な空の色と雲を映していました。その美しく不思議な光景に思わず足を止め、撮った風景です。

あなたの「お!」大募集!!

「お!」と感じる直方の風景や事柄、何でも構いません。市ホームページから投稿するか、任意のハガキ・封書で裏表紙記載の住所まで投稿してください。
ホームページ: 市政情報>広報・広聴>あなたの「お!」募集します
たくさんの投稿をお待ちしています。(これまでの投稿は市ホームページにも掲載しています)

投稿・問い合わせ
企画経営課ふるさと情報係
(TEL 25-2236)

おのつくのおがた
教わって送る直方
匿名希望さん

4階建て中央公民館を利用していますが活況です。
学ぶ人達の向上心旺盛の心意気を感じられます。この中から次代へ送る多くの指導者が育てば文化都市直方の裾野は更に広がる事でしょう。